

発行：農事組合法人志方東営農組合



今年のシロガネコムギは支店によって大きく収穫量に差が出ましたが、ゆめちからはどの支店も揃って豊作でした！昨年の二の舞になることなく無事収穫を終えることが出来ました。

高畑支店の小麦圃場（ゆめちから）

### 就任にあたって

代表理事 丸山 良作

黒田信行氏より代表理事を引き継ぐことになりました丸山です。どうぞよろしくお願い致します。引き継いで早4ヶ月となりますが、まだまだ実感がわかないのが正直なところです。

さて、当営農組合も設立以来10年がたち11年目を迎えるとしておりますが、最近、各支店とも作業従事者の高齢化、後継者不足が特に問題視されるようになりました。高齢化による集落営農組織の解散といった事例も全国的にはたくさんあります。そうならない為にも少人数でも対応できるスマート農業等への取り組みも視野に入れ、時代に応じた対策を講じたいと思います。又、当営農組合は個性ある14の支店の集合体であり、その独自の組織を活かせる事業を活発化させ、あらゆる手段を通じて世の中にもっとアピールしていきたいと思ひます。消費者へ安全、安心な作物を届ける為にも常に前向きをモットーに頑張ります。今後とも組合員の皆様のご支援、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

今年も5月25日にJA兵庫南しかた支店主催の採蜜ふれあいイベントが開催され、当営農組合も協賛させていただきました。下の写真はそのイベントの様子です。親子連れも多く参加され、興味津津に養蜂所の人の説明に聞き入っていました。

ヘアリーベッチから採れた蜂蜜です。ふぁーみんショップで販売中！



## 掲示板

7月10日（水）

★食育の一環として志方東小学校の2年生と仲良し学級の子供たちを対象にピザづくりに挑戦しました。営農組合が収穫する小麦がピザの材料となる小麦粉になるまでを分かりやすく説明しました。子供たちは地元産の食材のありがたさをかみしめながらピザづくりに励んでくれたと思います。上級生の分まで作った頃には写真のようにとても上手に焼き上げる事が出来ました。

★今回の事業には当営農組合より理事5名、女性スタッフ6名が参加し、準備から片付けまでお世話になりました。先生方もご協力ありがとうございました。



・みんなと一緒に生地を延ばしているところ



・釜から焼き上がったピザを取り出すところ



□今回参加した子供たち全員からお礼のお手紙が届きました。あまりの素直さに感激!!



### 報告

◆高畑地区で建設中の農機具格納倉庫は今、基礎工事が終わり養生中です。8月初旬に建前予定で月末までに完成の運びとなる予定です。



◆女性理事辞任に伴う後任理事選任についての書面決議の結果について  
組合員数 614 に対し  
回収票数 508 賛成507 反対1 以上の結果となり新理事として鎌田裕子さんが承認されました。よろしくお祈りします。

◆視察研修受け入れについて

7/24 岡山県奈義町より奈義アグリネットの会員15名が来訪。営農組合の広域化・法人化についての質疑応答、意見交換が行われました。





# 支店だより

## 畑支店 支店長 栗山 輝麿

畑支店は加古川市のいちばん西の端にあり、周囲を山に囲まれ幅は約300m、東西約2kmの細長い集落で戸数は71軒、組合員数67名です。昔から水稻の作付を行い半世紀以上前までは「たばこ」の栽培を行っていたようです。畑全体の耕作面積は、おおよそ18万㎡です。現在は半分の9万㎡を水稻と小麦を毎年交互に作付しており、ここ6～7年前から鳥獣被害が多くなり、特にイノシシによる被害が多発していますその為村の一行事として防護柵の設置を4年前から行って、今では集落の西側に対しては設置を完了して昨年からは東側に対して設置を始めています。どこの集落でも鳥獣被害が発生しており、その対策に苦慮しているようです。もう一つの悩みは担い手不足でこれもどこの集落にも言える事ですが、5年10年先を思うと正直不安になります。しかし、現在中間管理機構等様々な施策が講じられ農業事業に対しより良い方向へ進められると思います。

## 東飯坂支店 支店長 黒田 豊

東飯坂支店は耕作面積18haを有し、主な作付は小麦・水稻及び白大豆です。水稻は法華山谷川の清流を水源においしいお米を作っています。3年前より白大豆の作付を行い、年々面積を増やしています。まだ生産量が安定しませんがみんなで協力して安定生産できるよう努力しています。又、支店内でリタイアされる耕作者が徐々に増えてきており、支店で引き受ける圃場が増加しています。まだまだ先輩方の力が必要ですが、今後、若い世代の機械オペレーターを育て、みんなで協力しながら頑張っていきたいと思っています。

## 行常支店 支店長 藤本 章

平成30年度は、シロガネコムギは赤カビ被害で全滅。水稻ヒノヒカリは夏の異常気象とイノシシ被害対策の為、早めの刈り取りを行った結果収穫量が悪かった。令和元年になり全てを一新できればと思っていたが、シロガネコムギは赤カビの発生があり平成を引きづっている状態である。田植えは、予定通り行ったが、定年組作業員の高齢化と勤労組作業員の応援不足（各個人の仕事の都合）等々、将来には不安が一杯あるが前を向いて努力して行くしかない。天候不順や自然災害が無いよう、神頼みの心境である。

## 大宗支店 支店長 岡本 巨

平成30年に大宗支店長に選任され農作業の計画を任せられることになり、収支を考えながら作付面積及び作物の選択を考えていますが、志方東営農組合発足から10年を迎え当時の人材のままであり高齢化が進んでいます。各組合員も高齢になり農業離れが進み、営農組合への農地の委託が急に増加傾向にあります。当地区での放棄田を出さない為に営農組合が農地の引き受けを行っていますが、今後は若者に参加を呼びかけて作業員の確保及び後継者の育成に努め、先輩方の指導協力を得ながら当地区の農地を守っていききたいと思っています。

## 高畑支店 支店長 横山 六男

私が小学校の頃は農業を家庭内の仕事として苗とり、稲かけなど兄弟と共に行ってきましたが、今は機械化が進みグループ作業となりつつあります。親と共に農作業を行い色々作業方法を覚えてきました。機械化により大変楽になってきましたがその反面、後継者育成という面では手薄になってきており今後は町内、町外を問わず若者に興味を持ってもらえるような取り組みが必要になります。村に田、畑がある以上避けては通れない事と思います。

## 大沢北支店 支店長 黒田 信行

平成から令和に年号が変わった今年は水稻392aと小麦（昨年播種）378aその他56aを栽培しています。小麦の収穫は終わりましたが収穫量は大幅な減収となり他の支店に迷惑をかけました。原因は連作（5年）障害により、立枯病、小麦萎縮病及び雑草の増加による減収である。対策として次の①～③の中から実施を検討する。①輪作体制の確立②アミノ酸肥料を麦ワラすきこみ時に③石灰窒素の投入  
大沢北支店の農地は、入作も含めて18haありますが支店の経営面積は8.4haであり、農家数は31戸で、不在地主13戸、離農者9戸、家族農業者9戸ですが7名民間企業に勤務されています。集落営農として地域の農業を維持するための後継者の確保が困難になっています。抜本的な対策が必要です。

## 東中支店 支店長 藤井 敏

今年は小麦の収穫を目標300kg/10aで取組み、結果目標以上が達成出来ました。しかし今年の反省点として圃場により追肥の投入にばらつきがあり投入しすぎた原因による倒伏の圃場がありました。この経験を活かし更なる増収に向けて今後取り組みたいと思います。新しい試みとして小麦連作田に生えるイタリアングラス等への徹底した除草を実施し、その効果を実証したいと思います。又、今年より試験的に白大豆の作付にも取り組んでいます。  
最大の難問の後継者不足に関して、支店の作業を効率よく運営し、組合員の相互理解を得るよう取り組んで行きたいです。

## 広尾西支店 支店長 大村 勝信

広尾西支店は今年ジャンボタニシの被害が大きくなっています。イノシシ被害より深刻です。ほとんどの圃場でピンクの卵を見かけるようになってしまいました。食害された稲も多く収量が5割を切る圃場もあります。薬剤散布、捕獲、卵落とし等色々試していますが、これといった良薬はありません。冬場の徹底的な耕耘と田植え後の浅水管理が有効ではないかと考えます。  
今年度末に定年を迎える新人が入ってくる予定です。メンバーも高齢化し、体力的に作業がつかなくなってきて来ていますが、新人教育、メンバーの資格取得等人材育成に努めていきます。最後にジャンボニンクも5年目を迎え、要領が大分解ってきました。今年からは普通ニンクの栽培に取り組んでいききたいと思っています。

## 岡支店 支店長 上野 忠啓

昨年は全くダメ、本年どうする。我が営農組合基礎部分（麦栽培）が営農の営みを確立させてくれる。この基礎部分を何としても各支店顕著になり作業標準（当地区独自）を各支店間の共有栽培技術として、皆で指摘しあい顕著に柔軟に対応できる栽培戦略を持つべきだと思ひここに提案するものです。全支店が寄り添い同程度の土台で栽培できなければ他支店にまで影響を及ぼす事を自覚しなければ連立は崩れてしまう。水田フル活用は農水省も推奨しています。今ある農機、設備をフル活用して次なる作物を栽培して技術の構築と経営安定への道を模索していく。我が岡支店では、白大豆3.6ha・そば1.2haまた新しい取り組みとしてJA兵庫南と丹波の小田垣商店の技術提供を受け小豆23aを試験栽培します。ただ当営農組合も高齢化、作業要員不足をどう解決していくのか近々の課題としてあります。これには省力化（最新情報の習得）、技術革新を素直に受け入れ設備の拡充を図る事が高齢化対策と将来受け継いでいく人材確保の一つのきっかけになると信じ今するべき事、出来る事を躊躇なく実践して将来に向かって前進するだけです。

## 細工所支店 支店長 宮永 修

今年度の種子小麦（シロガネ）の作付については赤カビの被害もなく目標数量以上の収穫となり一般小麦と合わせて35t以上の収穫となった。今後、水稻（キヌヒカリ・志方健やか米）・大豆・そばの作付についても満足のいく収穫となるよう対応していきたい。過去にイノシシ被害に対して、被害防止対策の海苔網を設置しますが加古川市より金網の材料が支給されることに対して、町内会と連携して海苔網を取り換える計画を進めている。例年通り放棄田のない環境保全に務め、農道・水路等の草刈りを行う。農作業時の事故等が無いよう作業員一人一人が「慣れた作業に隠れた危険 みんなで注意」をモットーに、安全第一・健康第一で作業を行っていききたい。

## 広尾東支店 支店長 丸山 良作

最近、何のために営農を運営しているのか自問する事がよくあります。集落を維持するためには絶対農地を荒らしてはいけません。農地を守るためそこに作物を植付ける。少しでも補助金の多い作物を取り入れ、営農組合のスムーズな運営が出来る様に毎年作付計画を立てる。この繰り返しで10年以上やってきました。しかし、気が付けば当地区の7割弱の農地を営農が預かってしまっている現状に責任を感じます。作業従事者も高齢化し、後継者も育っていない現実を見て、今後どう対処していけばいいのか悩みます。しかし、農地を維持するだけのために営農組合を持続させるのではあまりにも将来性が無いように思います。やはり我々が目的意識をはっきり持ち、それに賛同してくれる人材を確保し、今以上に営農としての農業を活性化させる事が出来ればおのずと従業員も周年雇用できるぐらいの環境に営農組織を持っていけると思っています。頑張らしましょう！

## 野尻支店 支店長 玉田 和俊

野尻支店は地区の最北部で、隣は加西市に接しており周囲は城山山系に囲まれた盆地の所です。その為夏は他より暑く、冬は寒い、日照時間は少ない、作物にとっては条件が悪いと考えられるが空気は美味しく北は城山ゴルフ場、南は権現湖と風光明媚なところ。営農では現在小麦のみ作付を行っておりますが、この地区にあった作物があれば少しづつではあります。挑戦してみたいと思う昨今です。どの地区でも問題としてある高齢化による放棄田の増加、鳥獣被害特にイノシシによる被害がますます大きくなってきています。周囲が山に囲まれ食物が眼下にある状況となり対策として4～5年計画で柵の設置を昨年度より行っています。少しでも効果がある事を願って地区全員が作業についています。今後地区の営農に関する問題は志方東営農組合本店よりの指導、アドバイスにより進めていきたいと思います。

## 中才支店 支店長 前田 一夫

平成31年度小麦の作付面積は、シロガネコムギ209.9a ゆめちから208.9aで行った。しかし、乾燥前でシロガネコムギで10a当たり246.4kg、ゆめちから10a当たり390.7kgの荷受しか無かった。原因としてシロガネコムギの作付田は連作地であるため、除草剤散布量も多く行ったが効果無く、今まで無かった草イタリアングラス等の雑草に覆われたため収穫量が少なかったと思われる。今後は、連作田への作付を考え直し、又、除草剤についても種類及び散布方法を考え直す必要がある。次年度以降についても、シロガネコムギとゆめちからの作付けを行って行くが気候変動にも常に意識し、先手・先手で情報収集を行い、10a当たりシロガネコムギ350kg以上、ゆめちからも450kg以上収穫できるよう対処していきたい。

## 大沢南支店 支店長 谷口 佐敏

今年小麦も順調よく生育し沢山の収穫量が確保できました。しかし、水稻に関しては田植え後のジャンボタニシによる被害が年々大きくなって来ています。今後、JAをはじめとする関係機関ともよく相談し被害を少しでも抑えるよう対策を考えて行きたいと思っています。又、当支店も作業従事者の高齢化と人材不足が問題です。今後、皆さんともよく相談し人材確保に努めてまいります。

